

タイトル	録音時間	録音場所	録音年月	値段	説明
なぜスピリチュアリティか	全体 (35分33秒)	大阪	2011年10月	500円	人間を超えたものを信じないで生きると、たえず他人の目を気にして、自分の信じるところを誠心誠意実行することができなくなります。また、アドラー心理学やその他の科学技術を、他人を支配したり自分を防衛したりする目的で使うようになります。そうではなく、スピリチュアリティというものを思い出すことによって、共同体のために貢献的に、建設的にアドラー心理学を使うことができるというお話をしています。
人権と差別	前半 (50分09秒) 後半 (36分04秒)	大阪	2011年5月	900円	憲法記念日に話をしました。人権と権利は違うこと、人権とは世界支配思想であり革命思想であって、健全な思想ではないこと、そこから抜け出さないといけないことをお話しした上で、人権と関連して語られる差別という概念を取りあげ、その言葉が誤って使われていることを説明します。学校で教えられている道徳が、根底から間違っているという、ちょっと過激な議論です。
大人になる	全体 (45分11秒)	大阪	2011年3月	600円	バーナード・シャルマンなど20世紀のアドラー心理学の治療者たちは、ライフスタイルの中の「基本的誤り」を見つけて患者を治療しようとしました。しかし21世紀になって、問題を解決するために必要なのは「誤り」を正すことではなく、ライフスタイルの「成長」だと考えるようになりました。従って少しでもライフスタイルを成長させることが、アドラー心理学の治療の目的になります。ではアドラー心理学が考える「大人になる」とはどういうことなのか、ていねいに説き明かします。
横の関係	全体 (46分17秒)	大阪	2011年2月	600円	『横の関係／縦の関係』というアドラー心理学の概念と、『ヨコ社会／タテ社会』という中根千枝氏の概念と、『民主社会／封建社会』という福澤諭吉的な概念の混乱について説明し、アドラー心理学がいう『横の関係／縦の関係』についての最近の考え方の進歩について説明しています。
崩壊の時代のアドラー心理学	前半 (50分12秒) 後半 (48分26秒) 添付資料 yokote.pdf	秋田県横手市	2010年7月	1000円	秋田県横手市で行った講演会の録音をお届けします。「世のため人のため」ではなく「自分の幸せのため」を第一に考える個人主義が蔓延し、共同体が崩壊してしまいました。今や国民の誇りと国の未来が危機に瀕していることを、さまざまなデータをもとにお話ししています。このままでは未来への展望がありません。時間的にも空間的にも共同体とつながり、未来の共同体のヴィジョンをしっかりと抱いて、そこに向かって育児と教育をすることが必要です。10年前の講演ですが、むしろ今の時代の予言のようにも聞くことができます。ひとりひとりがどのように自覚して、どう子どもを育てていくか、それに依ってしか世界は変わらないと力強く語っています。
対話と論理	全体 (53分45秒)	大阪	2010年6月	600円	ヨーロッパ思想史の中でアドラー心理学をとらえ、古代ギリシア思想、中世思想との関連についてお話しします。ソクラテス的な対話、アリストテレス的な論理、ユークリッド的な分析が、中世神学を通じて、アドラーにどう受け継がれているかについて、特にライフスタイルに関連させながらお話をします。
科学の限界 (2)	全体 (55分54秒)	大阪	2010年1月	600円	観察不可能なもの、たとえば死後の精神などについての物語が、人間の心を動かすことがあります。「かのように」心理学の立場から、科学の限界を超えたところでの心理療法の話をしています。
科学の限界	全体 (42分42秒)	大阪	2009年11月	500円	科学絶対主義あるいは理性信仰が、家族や親族や地域や宗教組織などの中間組織を破壊して、孤立した個人の社会を作ってしまったこと、それを乗り越えるためには、科学の限界を知らなければならないということをお話ししています。
進歩と調和	全体 (54分44秒)	大阪	2009年10月	600円	1918年、復員したアドラーは共同体感覚を唱え始めました。当時のヨーロッパの人々はその変化にとまどい、アドラーがアドラーの正義を不寛容に語り始めたかのように捉えました。しかし実はアドラーは、理性至上主義的なデカルト・パラダイムを乗り越えなければ、戦争のない平等な世界を実現できないことを予見していたのです。アドラーの思想の発展をたどりつつ、進歩を重視していた機械論者であった若い時代から、動的平衡 Dynamic Equilibrium を重視する有機体論者に変化していく必然性をお話ししています。難しい話題かもしれませんが、アドラー心理学の未来を考える上で重要な問題だと思います。
人権と権利	全体 (58分18秒)	大阪	2009年10月	600円	自然法論的な概念としての「人権」と、実定法的な概念としての「権利」を峻別し、人権思想にもとづく差別論の危険さ、学校での人権教育の危険さを指摘しています。かなり過激です。

生きる意味	前半 (50分40秒) 後半 (49分43秒)	大阪	2009年9月	1000円	このできごとは人々にとってどういうことか。人々のために私はなにができるか」と考えて、生命や財産や自由を犠牲にしていでも守るべき価値とは何かについてお話をしています。アドラー心理学は「価値の心理学」であり、価値について特有の考え方をしています。アドラーがなぜそのような考え方をするようになったか、それが現代的にどういう意味があるかを、たとえをまじえながら、わかりやすく説明しています。
正気の社会	前半 (58分46秒) 後半 (45分15秒)	大阪	2009年7月	1000円	「正気の社会 The Sane Society」とはエーリッヒ・フロムの言葉です。フロムやアドラーの時代と比べて、残念ながらこの社会の「狂気度」はさらに増しているように思います。前半では、狂気を作り出しているものは、結局のところ、政治や経済や科学や思想の価値絶対主義であるという話をしています。後半では、思慮分別のある正気の社会を実現するために、私たちが具体的にどうすればよいのかを、アドラー心理学と関連づけながらお話しします。
共同体感覚	前半 (47分24秒) 後半 (46分26秒) 添付資料 figure.jpg	大阪	2008年12月	900円	ゲゼルシャフトとゲマインシャフトを区別し、ゲマインシャフト（血縁共同体）の中での「自然な情」としての共同体感覚について述べています。『バセージ』から話し始めて、民主主義や権利思想の歴史の話を経て、現代の社会がかかえる問題点の話になり、それを克服してふたたび血縁的な共同体を回復するにはどうすればよいかのビジョンを述べています。共同体感覚の話は何度もしていますが、初心者にも分かりやすい話ではないかと思えます。
平等と民主主義	前半 (54分19秒) 後半 (46分02秒)	大阪	2008年6月	1000円	民主主義とそれをめぐる諸概念、たとえば自由とか平等とか権利とかについて、歴史的にフランス民主主義とイギリス民主主義に遡って説明し、後半では、それと関連させながら、日本の状況の中でのアドラー心理学思想の理解について述べています。
共同体感覚と民主主義	前半 (44分13秒) 後半 (50分08秒)	大阪	2008年6月	900円	共同体感覚と民主主義の関係について話をしています。ゲマインシャフト（血縁地縁共同体）とゲゼルシャフト（契約共同体）を区別することと、フランス式民主主義（人権思想・伝統否定）とイギリス式民主主義（権利思想・伝統重視）とを対比させることで、共同体感覚の意味を探っています。
統合論と仮想論	前半 (39分01秒) 後半 (38分05秒)	大阪	2008年2月	800円	アドラー心理学の基本前提は「1. 個人の主体性、2. 目的論、3. 全体論、4. 対人関係論、5. 認知論」だと教えていましたが、この時期に、4.の対人関係論を社会統合論、5.の認知論を仮想論と呼びなおすことにしました。それにはいくつかの理由があります。それについてわかりやすく説明しています。
臨床心理学の歴史とアドラー心理学の今	全体 (56分37秒)	横浜	2007年11月	600円	カウンセリング・セミナーでの専門家向けの話です。20世紀の臨床心理学を、深層心理学の時代、認知行動心理学の時代、構築主義心理学の時代の3期に分け、その中でのアドラー心理学のあり方を考えることを通じて、2000年代のアドラー心理学の特質について考えます。
共同体感覚	前半 (56分20秒) 後半 (57分12秒)	大阪	2007年11月	1100円	共同体感覚をまったく新しい方向から語り直しています。これまでの、貢献・平等・協力というようなドライカース風の共同体感覚ではなく、仮想的目標追求そのものを乗り越えて絶対的全体論の認識にいたるといふ、スピリチュアルな意味での共同体感覚論を語っています。
治療共同体	前半 (54分13秒) 後半 (43分22秒)	大阪	2007年7月	1000円	専門家と非専門家、専門の相談施設と自助グループの間の、難しい関係を考えます。さまざまなデメリットがあるにもかかわらず、専門家と非専門家の連携をかかげるのは、アドラーの精神を受け継ぐためです。その上で、専門家と非専門家間の協力態勢を作っていく必要性を説きます。専門家へ呼びかけてアドラー心理学を学ぶ専門家を増やす一方で、非専門家のレベルアップを真剣に考えなければなりません。そのための方策を考えていく必要を説きます。
語りなおしとしての心理療法	前半 (59分24秒) 後半 (33分29秒) 添付資料 070630.pdf	横浜	2007年6月	1000円	構築主義にもとづいて心理療法のデザインを語ります。これまで勤と経験に頼ってきた心理療法を科学的な論理で説明し、誰にでも習得できるものになろうとしています。難解な部分もありますが、理解する価値は十分あります。同趣旨の論文が発表されています。
21世紀の倫理	前半 (58分33秒) 後半 (46分36秒)	大阪	2007年5月	1100円	近代西洋文明の破綻を超えて、新しい価値基準を作るためのお話です。きわめて過激ですが、きわめて示唆的です。天与人権説を批判し、次いで情報化によって作られた非真正の社会からの脱却を説き、さらに人間には真実を知ることができないという限界があることを指摘して、現代文明を根底から批判しつつ、次の時代への展望を語っています。

21世紀の危機と心理学	全体 (51分35秒)	岡山	2007年4月	600円	岡山市のカウンセリング講習会のとときの講話。21世紀がかかえている構造的な危機と、その中で心理学の建設的な側面と破壊的な側面を、するどく深く、しかもわかりやすくお話しています。
アドラー心理学の新しい展開	説明 (52分34秒) 質疑 (45分45秒) 添付資料 postmodern.pdf	大阪	2007年1月	1000円	このころ書き上げたばかりの論文「ポストモダン思想とアドラー心理学」を材料に、アドラー心理学の面接・助言・診断・共同体感覚について、ポストモダン思想との関係で考察しています。少し難しいお話ですが、アドラー心理学はある部分を取り入れある部分を拒否することで新しい展開を遂げつつあることを、できるだけわかりやすく説明します。
ポストモダンとカウンセリング	横浜の講演 (50分12秒) カウンセリング後の説明 (07分40秒) 東京の講演 (38分48秒)	横浜/東京	2006年12月	1000円	横浜でのカウンセリング前の講演では、アドラー心理学の新しい流れについて話をしています。臨床心理学が社会適応の手段におちぶれることに警告を發し、一方でネオ・プラグマティズムの危険性を指摘し、レヴィナスを援用しながら権利と責任の現代的な解釈に触れ、次の時代の心理療法のあり方を考えます。カウンセリング後の説明では、「願い」と「語り」をキーワードに、これまでのカウンセリングとの違いを説明しています。東京での講演は、モザクの「信念体系としてのライフスタイル」という客観主義的なアイデアを否定し、エピソードの連鎖としての「物語としてのライフスタイル」という構築主義的なアイデアを提唱しています。
価値相対論と治療者の中立性	1回目 (29分56秒) 2回目 (32分01秒) 3回目 (21分16秒)	大阪	2006年8月	900円	カウンセラー養成講座における講義です。めずらしいことに、詩を題材に取り上げて、それをもとに、価値相対論や治療者の中立性とはどういうことであるかを説明しています。
21世紀のアドラー心理学 2006東京	第1部 (29分52秒) 第2部 (16分31秒) 第3部 (23分19秒) 第4部 (22分17秒) 添付資料 cittamatra.pdf	東京	2006年7月	900円	グレゴリー・ベイトソンの「3つの学習プロセス」と「フレームワーク」という考えと、仏教の唯識思想の中の「八識説」を組み合わせて、アドラー心理学のカウンセリング・心理療法・スピリチュアルセラピーを説明するという野心的な試みです。論文「私とは誰か」の解説でもあります。
スピリチュアル・セラピー@但馬	全体 (45分01秒)	但馬	2006年4月	600円	兵庫県北部の養父市でおこなわれた講演。心理学がデカルト・パラダイムを脱却して新しい方向に動こうとしています。そのひとつの動きが東洋思想と組み合わせたスピリチュアル・セラピーです。これを伝統的なアドラー心理学のカウンセリング・心理療法と対比して、ベイトソンの学習1・学習2・学習3という考え方を援用しながら説明します。
21世紀のアドラー心理学 2006大阪	前半 (50分13秒) 後半 (37分58秒) 添付資料 060211.pdf	大阪	2006年2月	900円	デカルト・ニーチェ・ベイトソンという3人の思想家を取り上げて、アドラー心理学の位置を探ります。今回、特に焦点をあてているのはアドラー心理学の「個人」と「ライフスタイル」の概念で、これは「私とは誰か」という論文に結実しました。アドラーは人間像についてはニーチェを、実践においてはデカルトから続く古典科学を採用しました。しかし「世界に組み込まれた個人」という概念は、ベイトソンを先駆していると考えられます。難しいお話ですが、道徳の失われつつある今こそ、是非みなさまに知っていただきたい内容です。
アドラー心理学と地球環境	前半 (53分45秒) 後半 (52分16秒)	東京	2004年12月	1000円	一元論の時代 (中世)、要素論の時代 (近代)、全体論の時代 (未来) に時代区分して、現代の環境問題をデカルト風の要素論思想の結末だと考え、そこを脱却して全体論的に考える必要性を説きます。それに関連して、3種類のエコロジー、すなわち一元論的なディーブ・エコロジー、要素論的なエコ・キャピタリズム、全体論的なスピリチュアル・エコロジーの3つについて説明します。きわめて斬新なアイデアに満ちあふれた講演です。
愛するということ	前半 (51分44秒) 後半 (49分36秒)	札幌	2004年7月	1000円	私たちは愛ということ、インド哲学でいうところのボディとマインドのレベルでしか学んでいません。ハートのレベルから考えるなら、「愛する」とは、1) 人を人として扱おうとたえず決心し続けること。つまりひとりひとりを個性的な一回性を生きる人間として大切にすること 2) 人は世界から孤立した存在ではなく、世界 (自然・社会・家族) に完全に組み込まれた存在であると知ること 3) 私にできることは何だろうとたえず考え、自分の持っているものを自分から与えていくことの3つの側面から説明します。

「かのようにの哲学」とアドラー心理学	前半 (54分04秒) 後半 (51分47秒)	大阪	2004年5月	1000円	雑誌『大航海』掲載の「アルフレッド・アドラー ～フィクションとしての心理学～」を構想中に行った講演です。ハンス・ファイヒンガーの『かのようにの哲学』と関連させながら、「仮説」「仮想」「独断」を詳細に説明し、アドラー心理学を「フィクション（仮想）」という側から解明します。後半は「フィクションとしての自我」の話です。世界を判断することもすべて「かのように」で考え、ドグマ（独断）からも科学信仰からも抜け出そうと提案しています。
物語とアドラー心理学	前半 (49分28秒) 後半 (52分32秒)	東京	2004年4月	1000円	今ではおなじみのナラティブという概念ですが、エピソードすなわちストーリー（物語）は、真の意味で人生を左右する力をもつということをお話しています。アドラー心理学がエピソードをどう捉えて考えているかを深く掘り下げ、話はヴィトゲンシュタイン、グレゴリー・ベイトソン、臨床におけるスピリチュアル・タスクにまで及んでいます。「教科書には載っていない」、知的なおもしろさにあふれた講演です。
スピリチュアル・タスク 2004年1・2月	大阪 (42分10秒) 東京 (59分02秒)	大阪/東京	2004年1月 2004年2月	1000円	スピリチュアル・タスクについて、大阪でした話と東京でした話を並べます。事例検討会での話で、一般向けの講演ではありません。日本人についてはなぜスピリチュアル・タスクがあまり問題にならなかったかを、江戸幕府の仏教弾圧と結びつけて考えたり、自己タスクとスピリチュアル・タスクの関係を、実存主義・自我心理学と構造主義・システム論と結びつけて考えたり、独創的といえば独創的、言いたい放題と言いたい放題に、自由自在に語ります。
心の時代	前半 (55分20秒) 後半 (57分19秒)	大阪	2004年1月	1100円	ルネサンスの哲学者ブルーノは、汎神論的な「生きた世界」を主張して火刑になりました。その後デカルトが物心二元論を打ちたたてた結果、精神的なものについてはいっさい語られることがなくなり、ひたすら物質的なものとして世界を記述することが始まりました。そうして自然科学が成立しました。つまり科学は「死んだ世界」について語るものなのです。精神医学や心理学も、物質としての人間を前提にして、精神現象をそこから説明しようとしています。このことがさまざまな問題を引き起こしてきました。デカルトの立場に固執している限り、現代社会の問題は解決できないと思います。もういちどブルーノの時点までさかのぼって考え直す必要があります。さいわいグレゴリー・ベイトソンがブルーノに似た立場で、より現代的な思想を展開していますので、そこからアドラー心理学を考え直せないか探ってみます。哲学や精神医学に興味のある方にはとても面白い話題だと思います。
スピリチュアル・タスク 2004年3月	全体 (59分05秒)	大阪	2004年3月	600円	アドラーの発見した3つのライフタスクの捉え直しとして「スピリチュアル・タスク」を分かりやすく解説しています。哲学的なトレンドと心理療法の歴史を振り返ると、「自己タスク」は実存主義と自我心理学、「スピリチュアル・タスク」は構造主義とシステム論、に関係づけることができます。実存主義では個人の決断が社会を変えると考えますが、構造主義では個人は社会のシステムから離れて決断することはできないと考えます。現在の小さな出来事の繰り返しでその人の世界全体の流れができており、その全体は空間的にも時間的にも無葛藤に動いていると考えることができます（絶対的全体論）。上手にメタファーを使って集団療法を行えば、問題を根治的に解決することができます。スピリチュアル・セラピーに興味のある方にはたいへん興味深いお話だと思います。
アドラー心理学と現代の心理療法	前半 (47分38秒) 後半 (61分07秒)	大阪	2003年11月	1100円	日本アドラー心理学会20周年大阪総会直後の講演です。古典的なアドラー心理学の心理療法を脱却し、新しいパラダイムに進んでいこうという意欲にあふれたお話です。具体的には、システム型家族療法・短期療法・ナラティブセラピーなどの現代的な心理療法とアドラー心理学との関係を語っています。無意識の発見から、性格、行動、構築、絶対的全体論へと移行していく心理療法のトレンドがよく分かり興味深いです。
ポストモダン心理学とアドラー心理学	1部 (50分24秒) 2部 (52分47秒) 3部 (40分34秒)	大阪	2002年11月	1500円	一方で、アドラー心理学の諸概念（「ライフスタイル」や「民主主義」や「共同体感覚」）がすでに崩壊した「大きな物語」に依存していることを指摘する。他方では、ポストモダンの享楽主義的刹那主義ではなく、「誓願」、「一回性」ということをキーワードに共同体感覚を再定義し、ポストモダン心理学とアドラー心理学の違いを明らかにする。

個性と責任	前半 (43分57秒) 後半 (61分55秒)	大阪	1996年6月	1000円	「予測と制御のための言語システム」としての科学の定義から始めて、アドラー心理学理論を科学として再評価し、そこから次第に、テーマの「個性と責任」の話に入っていきます。さらに「人生の意味」についての、思想的な話になっていきます。比較的難しい話です。
アドラー心理学の基礎を問い直す	前半 (45分42秒) 後半 (39分24秒)	京都	1993年10月	800円	京都、西本願寺の門徒会館で行われた、第10回日本アドラー心理学会総会における基調講演。当時、アドラー心理学の理論と精神を無視して、単なる対人技術としてとらえ、他者を支配する道具として教えている人たちがいたが、まず、その誤りを指摘する。そのような誤用から脱却するためには、基礎理論をしっかりと理解しておかなければならないが、ハインツ・アンスバッハーが1950年代にまとめた理論はアウト・オブ・デートになってきている。そこで、個々の概念をきちんと再定義することからはじめて、現象学や構造主義や、さらには当時はまだ目新しかったポスト構造主義にまで言及しながら、最終的に「物語」や「回心」というような、最近の理論につながる斬新なアイデアが提示される。きわめてやっかいな議論をしているし、理論的にはまだ未完成だが、専門家ならびに専門家志望者は必聴。
共同体感覚の諸相	前半 (40分03秒) 後半 (39分01秒)	大阪	1991年10月	800円	大阪市立大学で行われた、第8回日本アドラー心理学会総会における基調講演。アドラーの生涯を4つの時期に分け、第3期まではライフスタイルの間違いを正対するタイプの治療をしていたが、第4期には逆説的な治療技法が中心になりました。それは、彼の理論の中心点が、ライフスタイルから共同体感覚に移ったことと関係があることを指摘します。また、治療者がみずから共同体感覚を身につけていないと、患者に共同体感覚を教えることができないことを指摘します。